

アルミ缶 リサイクル ニュース

January
1
2020

Vol. 150

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>



2020年 年頭所感

2020年理事長新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。
2020年の年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、米中貿易摩擦の長期化により国内でも輸出関連の不振が続き、製造業における減退感が強まりました。また、当協会が関わるUBC（使用済みアルミ飲料缶）の需要も低迷し、相場の下落によるリサイクル活動の停滞が懸念される状況となりました。アルミ缶リサイクル活動に携わる者としては、日本経済全体の成長とCAN to CANリサイクルの更なる進展により、アルミ缶リサイクル環境が安定して継続することを願っております。

世界的な環境問題に目を向けますと、近年は海洋プラスチック問題が世界的に取り上げられ、昨年6月のG20大阪サミットでは「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す」ことが共有され、G20各国で自主的対策への取り組みが始まりました。日本ではこれに先駆け2018年11月に、全国清涼飲料連合会が「2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す」と宣言し、ボトルtoボトルの強化を始めとした様々な取り組みを開始しています。

さて、昨年のアルミ缶市場は7月の冷夏や10月の消費税増税前後の仮需とその反動など、月毎に前年実績と比べて大きく上下しましたが、年間ではほぼ前年並みで着地したと見込まれます。6年連続で年間200億缶を超える大量のアルミ缶が国内で消費されていることとなり、引き

続きリサイクル活動に注力していくべき環境にあると考えております。

当協会は容器包装八団体で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーですが、2020年までにリデュース率5.5%の達成と、リサイクル率90%以上の維持を目標に活動しております。2018年度実績としては、リサイクル率は90%以上維持を達成できましたが、リデュース率については5.3%と目標に今一步のところで停滞しており、引き続き関係者への啓発に努めてまいります。

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として、早くから皆様に認知され、回収活動は容器包装八団体の中では比較的早期に始まり、今や全回収量の半数を集めている集団回収（学校、自治会、老人会、子供会、福祉施設など）、消費者、自治体、事業者のご協力もあり、リサイクル率は安定して90%以上を維持できております。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますとともに、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対して、厚く御礼申し上げます。当協会と致しまして、表彰制度や展示会などによりアルミ缶のリサイクル活動の啓発に努めてまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。



アルミ缶リサイクル協会
理事長 田代 泰

3R推進団体連絡会 第3次自主行動計画のフォローアップ報告

12月11日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する八団体が纏めた自主行動計画2020の2018年度フォローアップ記者説明会を経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースとは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みですが、2020年度の目標を達成したのは1団体のみで、当協会を含む他

の団体は目標にあと一步のところとなっています。

一方、リサイクル面では、当協会を含む3団体が2020年度目標を達成しています。

また普及・啓発活動としては、エコプロ2019への出展、市民・自治体などとの交流会等を行い、関係各主体との連携・協働への取り組みも深化しました。3R推進団体連絡会は引き続き関係主体との連携を深め、循環型社会の推進に努めてまいります。



2019年(令和元年)一般回収協力者表彰



全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で59団体(受賞者の詳細は前号Vol.149に掲載)が優秀賞を受賞され、10月中旬から12月にかけて全国で表彰式が開催されました。関東地区の受賞者につきましては、11月15日に千代田区竹橋の如水会館に於いて合同表彰式が開催され、同時に本年度優秀回収拠点3社につきましても表彰を実施しました。

アルミ缶一般回収協力者合同表彰式(関東地区)およびアルミ缶優秀回収拠点表彰

本年度の合同表彰式は、関東地区の受賞団体22団体をお招きして開催致しました。表彰に先立ち理事長の田代より「アルミ缶の回収ルートは、自治体回収・自主的集団回収・店頭回収・事業系回収の4つがあります。この中で集団回収による回収量は毎年増加しており、今や全回収量の約半数は集団回収によるものであり、自治体の回収量を大きく上回っています。アルミ缶の集団回収は他の容器の集団回収には見られない力強さがあり、このような素晴らしい状態から「アルミ缶はリサイクルの手本」と言われる様になっています。これも本日ご出席の皆様方の努力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。引き続きアルミ缶の回収をお願い致します」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省製造産業局金属課 課長補佐 山本茂 様より「本日表彰を受けられた皆様、また長年この様な取り組みを行っているアルミ缶リサイクル協会の皆様に敬意を表します。リサイクル率が4年連続で90%台を記録し続けているのは、本日ご列席の皆様をはじめとした方々の地道な努力によるところが大変大きなものであると言えます。アルミは軽く・強度が有り・加工性が良い・錆びにくい等の優れた特徴があり、アルミ缶の他にも建材・車両・アルミホイール等

身近なところで使われており、産業を支える基幹的な素材です。また今後、車の電動化が加速するに伴い、さらなる車体の軽量化が求められ、アルミの重要性は今以上に大きくなることは確実です。ただ、アルミの新地金は100%輸入されており、資源の安定供給の観点からもアルミのリサイクルは大変重要です。現在、日本のアルミ需要の概ね半分はリサイクルされた再生地金で賄っていますが、そのうち4割は輸入された再生地金です。アルミリサイクルの推進には、国民一人一人の意識の向上・地域による自主的な取り組みが重要です。今後もこれまでの取り組みを継続し、アルミ缶リサイクルへの貢献をお願い致します。」とのご挨拶を頂きました。

乾杯に先立ち、副理事長の内藤より「アルミ缶回収事業に協力頂いており、誠にありがとうございます。協会のパンフレットにはリサイクルする事により 資源を大切にできる ゴミを減らすことができる エネルギーを大切にできるとあります。これをもって地球の環境を守ることが協会の役割であります。すべては本日受賞の皆様方のご尽力・下支えがあつての事。受賞者の皆様に感謝申し上げます。」と挨拶がありました。



田代 理事長




経済産業省製造産業局 金属課課長補佐 山本様



内藤 副理事長

受賞者を代表して2団体様から受賞の喜びのお言葉を頂きました。

安養寺「にんげん」の会
安養寺住職 船戸義澄様



「本日は栄えある賞を頂き本当にありがとうございます。25年前からアルミ缶とスチール缶を分別してアルミ缶だけを収集してきました。収集したアルミ缶を持って行ってもらったら結構な金額になり、ちりも積もればという日本人の精神に火がつき今日まで継続してきました。本日は栄えある受賞式に参加させて頂きありがとうございました。」とのお言葉を頂きました。

安養寺「にんげん」の会 船戸様

社会福祉法人なごみ福祉会
多摩川あゆ工房 支援者 馬場裕之様
利用者 小池康弘様



「本日はお招き頂いてありがとうございました。障がい者施設で約15年前からアルミ缶の回収を継続してきました。その積み重ねが評価されたことであり、非常にうれしく思っております」とのお言葉を頂きました。

多摩川あゆ工房
支援者 馬場様、利用者 小池様



アルミ缶優秀回収拠点表彰

昭和58年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は株式会社 蒲田高商店様(和歌山県牟婁郡)、社会福祉法人 県南福祉会社会就労センター さつき園小島様(大分県佐伯市)、株式会社伸和産業様(青森県弘前市)の3社が選ばれ、各社から受賞のお言葉を頂きました。

株式会社 蒲田高商店 代表取締役 坂井 篤子様より

「この度は優秀回収拠点表彰、誠にありがとうございます。和歌山県田辺市で昭和22年からスーパー・小・中学校・子供会の資源回収を実施してきました。当初は古紙のみでしたがアルミ缶の需要も増え、今では小中学校・町内会でのリサイクルに対する関心も高くなってきていますので、これからも近隣住民の皆様と共にアルミ缶のリサイクル率100%を目指して協力していきたいと思っております。本日は誠に有難うございました。」とお言葉を頂きました。



株式会社 蒲田高商店 代表取締役 坂井篤子様

社会福祉法人 県南福祉会 社会就労センター さつき園小島 支援係長 橋本 隆文様より

「さつき園小島は昭和60年に障がい者施設として大分県佐伯市に誕生しました。当初から地域に出て、地域の皆様に貢献する事を目的にリサイクル活動の事業化に挑戦して来ました。回収した廃油から石鹸を製造し町で売り始めたのをきっかけに、今では古紙の回収、牛乳パックを利用した和紙製造と幅広く地域に貢献しています。その中でもアルミ缶の回収は、地域の小中学校の授業の中でリサイクルの大切さを伝えていく重要な項目となっています。これからもアルミ缶の回収を通じて幅広く社会に貢献できるように継続していきたいと思っております。」とお言葉を頂きました。



さつき園小島 支援係長 橋本隆文様

株式会社 伸和産業 常務取締役 葛西 啓二様より

「青森県弘前市を拠点として古紙を中心とした事業を展開し、ここ数年はアルミ缶の回収に力をいれてきました。4年前に試しに4団体を推薦した処4団体共表彰頂けることになりました。それから4年間で、24団体の推薦を実施し、そのほとんどで優秀賞を受賞しています。表彰式に来て頂く際には協会の方からリサイクルに関する貴重な話を頂いており、その話を我が社のリサイクルに関する社員教育にも役立っています。本日は優秀回収拠点の表彰 誠に有難うございます。」とお言葉を頂きました。



株式会社伸和産業 常務取締役 葛西 啓二様

2019年(令和元年度)「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」表彰風景



みどり市立大間々中学校



みなかみ町立水上小学校



みなかみ町立水上中学校



弘前市立裾野小学校



弘前市立東目屋中学校



弘前市立和徳小学校



勝山市立北郷小学校



小山市立絹義務教育学校



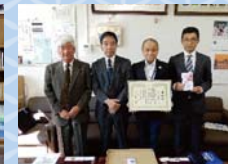
秦野市立南中学校



青森市立浦町小学校



青森市立造道小学校



大田区立糀谷小学校



長井市立豊田小学校



東広島市立吉川小学校



東広島市立原小学校



東広島市立中央中学校



南魚沼市立第一上田小学校



白浜町立南白浜小学校



美祿市立綾木小学校



富士市立鷹岡小学校



福山市立綱引小学校



防府市立大道小学校



本宮市立岩根小学校



エコプロ2019出展 明るく開放的なブース リサイクルクイズで少しお勉強



エコプロ2019(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は12月5日(木)~7日(土)の3日間、東京ビッグサイト西ホールで、「持続可能な社会の実現にむけて」をテーマに「環境とエネルギーの未来展」として開催されました。今回21回目となった本イベントへの総来場者数は147,653人で昨年より14,564人の減少となりましたが、当協会ブースへの来場者数は昨年より800人程増え約5,000人でした。

3R推進団体連絡会の一角にある協会のブースでは「よくわかるアルミ缶リサイクル」をテーマに「生まれ変わるアルミ缶」「CAN to CAN」を訴求する現物展示で理解を深めてもらいました。今年は特に展示体験コーナーを充実し、UBCプレス品を持ってみる、秤を用意して実際にアルミ缶の重量を測ってもらう試みも行いました。昨年好評だったアルミ缶で作った鶴のオブジェに加え、一般の方が制作した風車及びサッカーボール・多面体の展示も行い、来場者からは驚きの声が聞かれました。

又、回収されたアルミ缶がどのようにしてリサイクルされるのかも現物と共に見て頂きました。リサイクルクイズではアルミ缶のリサイクルによる省エネ性・タブは付けたまま回収する・リサイクル率・CAN to CAN率等をパネルで確認しながら楽しく学習して頂きました。

12月7日(土)11:00からは松竹芸能の人気女性お笑いコンビ“アルミカン”の二人によるエコ漫才・クイズ等がブースにて行われ来場者の皆さんには楽しんで頂きました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



ブース全景



体験コーナー



リサイクルクイズコーナー



ブース風景



アルミカン エコ漫才

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締め、回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。今年はいよいよ待ちに待ったオリンピックイヤーです。海外からのお客様にもきれいな日本を印象付けて帰国頂く為にも町の美化・リサイクルにさらに邁進したいと思います。
- 今年こそ災害が無く皆様が安泰に幸せに過ごせる年になるといいですね。

アルミ缶リサイクルニュース第150号
 発行日 令和2年1月27日
 発行人 保谷 敬三
 編集人 小林 裕
 発行所 アルミ缶リサイクル協会